

研究主題

地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子
～地域との連携による「おおたの未来づくり」を目指して～

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

日時 令和6年7月1日(月)5校時

学校名 大田区立久原小学校

対象 6年2組 32名

1 単元名

「わたしたちが創る 久が原の町」内容のまとめ「まちづくり」(全70時間)

2 単元の目標

地域の新たな良さを発見し、地域への愛着をさらに深めるとともに、地域の良さやそこに住む人々の思いや願い、課題を知り、これからの自分の生活に生かしていこうとする。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価基準	・学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解している。	・身近な生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめたり、表現したりしている。	・学習に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いのよさを生かしなが、積極的に交流しようとする。
学習活動における評価規準	① 地域で暮らす人々の願いや思いを具現化するため、様々な人々が尽力し、互いに関わり合うことでまちづくりが成り立っていることを理解している。(知識) ② 目的や対象に応じて、調査活動や発信方法の選択を適切に行っている。(技能) ③ さまざまな人々の立場を理解し、地域社会とのよりよいかかわり方に気付く。(知識)	① 地域をよりよくするための取組を決めるに当たり、目的を意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。(課題の設定) ② 地域の現状をより理解するために必要な情報を調査する対象を選びながら収集している。(情報の収集) ③ 自分たちの理想とする地域づくりに向けて、得た情報や解決の方法を、実現可能な提案か、どのような効果があるかという視点で整理・分析して考えている。(整理・分析) ④ 活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を伝えている。(まとめ・表現)	① 自己と異なる意見や考えを理解しようしたり、友達のよさを認めたりしながら、よりよい課題解決につなげようとしている。(自己理解・他者理解) ② 自分と異なる意見や考えを生かしながら、個人でできることと仲間と協力してできることを意識して、協働的に探究活動に取り組もうとしている。(主体性・協働性) ③ よりよいまちづくりに向けた取組をする人々等のつながりに気づき、地域をよりよくするために、共にできることを考えて行動しようとしている。(将来展望・社会参画)

4 単元設定の理由

本単元は、「まちづくり」を材とした単元であり、「地域や学校の特色に応じた課題」に当たる。本校が所属する大田区は、東京国際空港(羽田空港)を擁し、「国際都市おおた宣言」を行うなど多様な人々が行きかう町を目指す一方、古くから工業の町として知られ、その技術を守ることに尽力している。どのような未来を目指してまちづくりを行っていくのかは、その地域に住んでいる人々や働いている人々など一人一人が思いをもって考えを伝えることが大切であり、意見を述べたり、提案したりする能力は普遍的に必要な能力であると言える。

令和6年3月には大田区基本構想が制定され「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区」という目標を打ち出し、区民からアンケートを取り、まちづくりを推進している。

本校の研究主題である「地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を想像する子」を育成する上で「まちづくり」という材は、自分の未来に直結する課題であり、児童一人一人が主体的に考えやすい。一方で、材の大きさもあり、自分だけでは課題解決をしていくことは難しいため、課題解決に向けて、児童同士や地域の方と協働的に取り組んでいくことが必要である。自分や家族、地域の人々がよりよく暮らしていくために、自分たちができることを考えながら探究的な学習を積み重ね、実際に行動することで自己の生き方へ活かすことができると考えた。

また、「おおたの未来づくり科」においては、「地域の創生」の学習内容である。そのため、高学年では、課題を把握し、課題解決に向けて自分の考えを伝えたり、他者と協働したりして、考えを練り上げていくこと、そして、他者意識をもって創造的に実行し、新しい価値を生み出していく力が求められると考えた。インタビューを通して、地域の課題を知り、これまでの経験や既習内容を活かしながら、自分たちができることを考え、地域の方に提案し実行していく活動を通して、未来を創造するための見方・考え方を身に付ける。さらに、教科横断的な学習を計画的に行うことで、他教科と関連したことを生かして、地域・社会・未来をより豊かにしようする資質・能力を活用する態度を育てていきたい。

児童の実態

(1)総合的な学習の時間について

本学年は第4学年総合的な学習の時間で、「久が原防災プロジェクト」を通して学校・家・地域の防災について学習した。学習を通して、自分の学校や家、地域の施設・公園の安全や危険な箇所を見付け、どのように避難行動を取ればよいか考えたり、防災マップにしてまとめたりする学習を行ってきた。また、震災が起きたときのために、防災グッズを調べたり、自分の防災グッズを作ったり、避難所について学んだりして、地域の一員としてどのように過ごしたら良いか考えてきた。年間を通して学習したことで防災意識が高まるとともに、自分たちにもできることがあると意識を高めることができた。

第5学年の総合的な学習の時間では「ものづくり」を題材として、大田区のものづくりの素晴らしさや課題に触れ、自分たちができるものづくりについて学校の課題を見付け、企画書尾を作成して、自分たちの考えや思いを伝え、ものづくりによって課題を解決することを学習してきた。年間を通して学習したことで、大田区の高い技術を知るとともに、ものづくりを継承していくことの大切さに気付いたり、自分たちもものづくりで相手の課題を解決したりすることができるという創造性や他者意識を育てることができた。

本単元では、自分たちが住んでいる久が原の町の良さを再発見し、町を更に良くするための課題を見出し、地域の方と連携して、自分たちの考えを提案し行動する活動の中で、自分たちができることを行っていく。自分たちの実生活を創造的により良くできる主体的な態度を育成するとともに、他者と協働して新たな価値を生み出し、自ら社会参画していく児童を育成していきたい。

(2)地域について

今年度は、本単元の学習を通して、地域の新たな良さを発見し、地域への愛着をさらに深めるとともに、地域の良さやそこに住む人々の思いや願いを広め、社会に参画する力を高めていくことをねらいとして考えた。本校のある久が原地域は、縄文・弥生時代の遺跡に住居が立ち並ぶ閑静な住宅街である。本校は

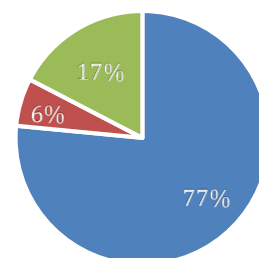
出張所と併設しており、5つの自治会による「ふれあい運動会」が今年で35回目を迎えるなどを地域のつながりが深い。また、地域の方々は学校の教育活動に非常に協力的で、ボランティアやゲストティーチャーなどを快く引き受け、こどものために力をお貸しいただける方が多い。児童は第1学年から地域とつながりをもって学習に取り組んできている。このつながりの深さや地域の人々の温かさに気が付き、自分たちも地域を担う一員であることに自覚をもって、自分たちの力を地域に還元できるようにしていきたい。

(2) 児童の実態について

第6学年131人を対象にアンケート調査を行った。

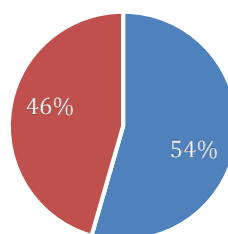
「久が原の町が好きか」という設問については約75%の児童が「はい」と回答し愛着をもっている児童が多くいる一方で「いいえ」「分からない」と回答している児童も約25%いた。「はい」と回答した児童に理由を尋ねると「地域の人が優しい」「毎朝あいさつしてくれる人がある」「おやじの会や地域の人々が学校にたくさん協力してくれる」など情緒的なつながりが育まれていることが分かる。一方、「いいえ」「分からない」と答えた児童は、「お店が少ない」「他の地域の方が栄えている」「良さが何か分からない」など人ではない所に着目していることが分かる。

久が原の町は好きですか



「自分の地域をよりよくするために、あなたがやってみたいことはありますか。」という設問に対しては、「はい」が約46%、「いいえ」が約54%であった。「はい」と答えた児童は、「地域の良さをもっと広げたい」「地域の人と交流イベントをやりたい」などとつながりを強化していくような内容を回答している。「いいえ」の児童は「課題が見当たらない」「何ができるか分からない」という回答していて、まちづくりが自分から遠いものだと感じている内容であった。

地域をよりよくするために、あなたがやってみたいことはありますか



本単元では、久が原の町の良さを地域の方と関わり、自分たちができることを提案・企画することで再発見・再認識できるようにしていくとともに、「まちづくり」の大切さについての新たな価値を児童が見つけられるようにしたい。そのためには、店、交通の便、施設などの無機質的なところに着目するのではなく、久が原の人を「知り」、久が原の人との「関わり」、久が原の人と「つながる」という有機質的なところに着目させていきたい。そうすることで「自分たちも地域の一員として街を良くするためにできることを行っていこう」とする主体的に社会参画する態度を育成していくことをねらいとしている。本単元は、「まちづくり」を材とした単元であり、「地域や学校の特色に応じた課題」に当たる。

本校の研究主題である「地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を想像する子」を育成する上で、「まちづくり」という探究課題は、自分の未来に直結する課題であり、児童一人一人が主体的に考えやすい課題であると言える。一方で、自分だけで解決していくことは難しい課題でもあるため、課題解決に向けて協同的に行動しやすい課題であると考えた。自分や家族、地域の人々がよりよい暮らしをしていくために、自分たちができることを考えながら探究的な学習を行い、自己の生き方へ生かすことができる。

また、「おおた未来づくり」の実施に向けて、高学年では自分の考えを発信したり、具体的に提案・実行したりして、より良いものを追求していく力が求められる。インタビューを通して、見聞きしたことを自身のこれまでの経験や既習内容を関連付けながら、現実的に自分たちにはできることを考え、提案していく活動を通して、未来を創造するための見方・考え方を身に付けていきたい。さらに、教科横断的な学習を計画的に取り入れていくことで、他教科で学習したことを生かし、地域の社会や生活をよりよく豊かにしようと主体的に取り組む態度を養いたい。

6 主題に迫るための手だて

高学年分科会で目指す姿

地域の問題から課題を設定し、地域の一員として地域と協働して、よりよい地域・社会・未来を想像する子

(1) 地域連携をして課題を解決するようにする

- ・スクールサポートと連携し、久が原特別出張所の職員、自治会など地域の様々な方にインタビューを行うことで、地域とつながりをもっているのかということについて、情報収集できるようにする。また、地域には、地域の未来を考え、行動してくれている人がいることに気付くことができるようにする。
- ・児童一人一人が地域の未来について考え、授業で作った制作物やそれぞれが考えた提案を地域の人たちに発信していける機会を設けるようにする。

(2) 身近な生活・地域・社会から、問題を見付け、課題性設定をする

- ・地域とのつながりについて、児童が聞き取った内容をフロアにまとめておくことで、地域に存在する課題とその解決に向けて取り組んでいる人々の活動例をいつでも参照することができるようにする。
- ・学習したことがわかるように、これまでの学習を掲示して、地域・社会の課題を自ら解決していく態度を身に付けることができるようにする。

(3) 課題解決に向けて必要な情報収集、整理分析し、解決へ向けた行動を取ることができるようにする

- ・付箋、オクリンクやムーブノートを活用することで、個々の考えを出させ、それを全体で閲覧できるようにすることで、個々の考えが共有されるようにする。
- ・これまで扱ってきた思考ツールや活用できるアプリケーションなどを提案し、自分たちの目的に合わせて、集めた情報を整理できるようにする。
- ・クラスの共有ドライブで集めた情報を共有し、いつでも振り返ることができるようにする。

(3) 自己の生き方を考えることができるような機会や場を設定する

- ・自分たちの地域の良さや地域の未来の姿を考えさせることで、まちづくりの実現を目指して、主体的に行動したり、周囲と協力して取り組んだり、今後の生活の中でも生かせるようにする。
- ・授業後に、振り返りの時間を設定することで、毎時間の学習を自己の生き方につなげられるようにする。
- ・小単元の終わりに、学習してきたことを元に自分たちに出来ることを考えまとめることで、これからの生き方を考えることができるようにする。

7 おおた未来づくり科との関連 高学年として目指す姿

	意識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
創造的な資質・能力育成	①イノベーションを起こすものや取組を創出するための知識 ②情報収集及び相手に分かりやすく伝えるための知識及び技能	①社会や生活を豊かにするための課題を発見する力 ②アイデアやデザインを考える力 ③思考錯誤してものや取組を創出する力	①自分や他者のよさを生かして主体的に取り組もうとする態度 ②よりよい未来社会を創造しようとする態度
高学年として目指す姿	・ 探究学習や発信する過程において、必要な知識及び技能を身に付け、活用している。	・ 情報を集め、整理・分析して、まとめたことを基に試行錯誤して、地域の社会や生活をよりよくする取組を発信したり、実行したりすることができる。	・ 実社会で活躍する様々な人とのかわりを大切にするとともに、協働学習などにおいて自分や他者のよさを生かしながら主体的に取り組むことができる。

8 教科等横断的な学習

教科	単元名 ()はおおたの未来づくり科としての時間数	「まちづくり」との関連	「おおた未来づくり」との関連
国語	聞いて、考えよう (2時間)	情報収集及び、目的に応じたインタビューができるようにする。	情報収集及び、目的に応じた話し合いができるようにする。
国語	デジタル機器とわたしたち (2時間)	久が原をよりよい町にするためにどんなことができるのか、筋道の通った文章で説明できるようにする。	目的や意図に応じて提案する文章を書くことができるようにする。
国語	おすすめパンフレットを作ろう (1時間)	これまでに集めてきた久が原の町の良さを、読む人により魅力的に思ってもらえるパンフレットを作る。	考えを整理して、集めた情報を整理して相手にわかりやすく伝えられるようにする。
国語	みんなで楽しく過ごすために (2時間)	久が原の町をよりよくするためにどんなことができるか話し合い、よりよい結論ができるようにする。	コンセプトに合った取組のアイデアを創出するために、協働的に取り組むようにする。
国語	今、私は、ぼくは (2時間)	これまでの学習を振り返り、資料を活用するなどして、自分の体験したこと、学んだことを発表する。	文章や図表を効果的に用いて、自分たちの提案内容を発信ができるようにする。
社会	願いを実現する政治 (3時間)	政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて調べ、国や地方公共団体の政治の取組を理解できるようにする。	一人一人が願いをもって活動し、実行に移すことで地域社会が豊かになっていくよう主体的に行動することができるようにする。
算数	データの調べ方 (2時間)	アンケートなどで集めた情報を整理して、今後の活動に活かすことができる。	集めた情報を整理して、必要な情報を正確に集めることができるようにする。
理科	理科とプログラミング (4時間)	ICT機器を活用してイベントに関するポスターなどを作成することができる。	ICT機器からアプリを選んで、効果的に活用できるようにする。
理科	電気とわたしたちの暮らし (2時間)	イベントに関するアンケートを作成して、よりよいイベントにするためにICT機器を活用することができる。	ICT機器からアプリを選んで、情報を収集することができるようにする。

9 指導と評価の計画(全70時間扱い)おおた未来づくり科との関連(網掛け部分)

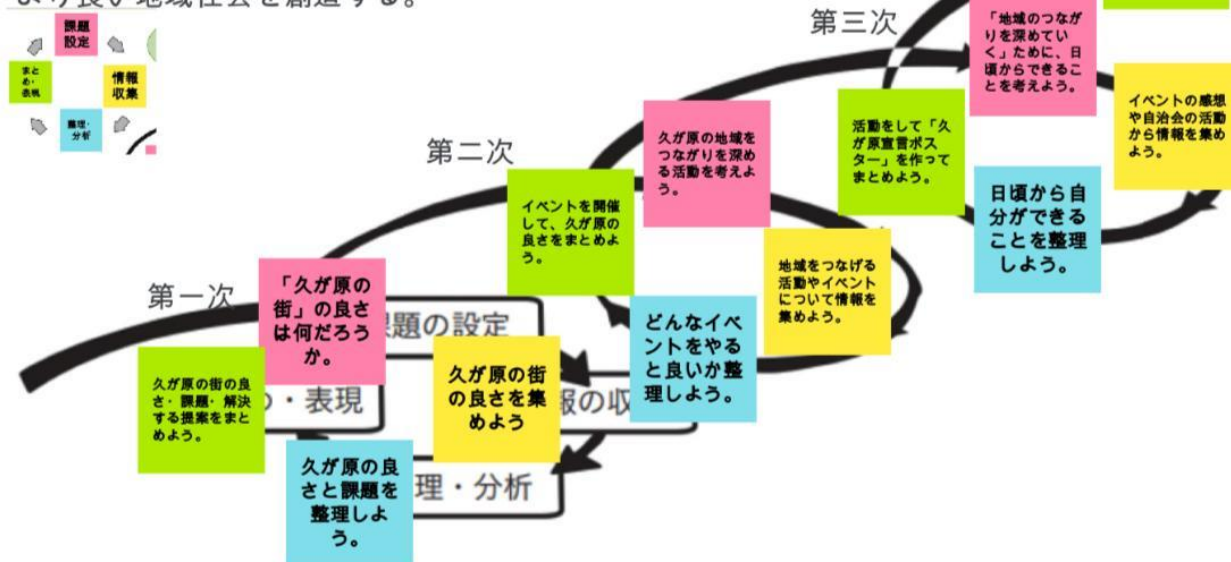
小単元	時数	○主な児童の活動 ・予想される児童の姿	◇手だて ■教科横断的な学習	おおたの未来づくり科との関連		
				知	思	主
【課題設定】	1～2	久が原の町の良さを見付けよう。 ○久が原はどんな町が考える。 ・挨拶してくれる人がいるよ。(人) ・住宅街だよ。(町並み) ・お店は他の地域の方がいるよ。(人) ・良さってよく知らないかも。(課題) ・よく知っている人に聞いてみよう。	◇(2) 掲示物			
	3～6	○久が原の町について知っている人に聞いて情報を集める。 ・久が原の良さはなんだろう。 ・どんな人が住んでいるのかな。 ・久が原はどんな町を目指しているのかな。 ・課題はなんだろう。	■国語 「聞いて、考えを深めよう」 ◇(1) スクールサポート ◇(3) 付箋、オクリンク	②		
【情報収集】	7～10	○久が原の町の良さや課題について整理分析する。 ・人が多く住んでいるよ。 ・自治会に入っている人が少ないよ。 ・どうしたらもっと良い地域になるのかな。	■国語 「情報と方をつなげて伝えるとき」 ◇(3) 思考ツール	②	②	②
【整理分析】	11～15	○久が原の町について良さ・課題・提案をまとめよう。 ・良さはやさしい人がたくさんいることだよ。 ・地域で活動している人もいっぱいいるよ。 ・自治会で楽しいイベントを開催しているけどつながりが少ないよ。 ・交流会を開いたら楽しそう！ ・自治会のイベントに参加してみたいな。	■国語 「デジタル機器と私たち」 ◇(3) ドライブの活用 ◇(4) 小単元のまとめ			
【まとめ・表現】		久が原の地域のつながりを広げよう。		①		①
	16	○地域のつながりを広げるためにできることを考える。 ・子どもも大人もつながるイベントをやりたいな。 ・いつやったら参加率が上がるかな。 ・久原小学校でやりたいな。	■国語「みんなで楽しく過ごすために」	②	②	
【課題設定】	17	○地域の人がつながるイベントにはどんなものがあるか情報を集める。 ・ふれあい運動会をやっているよ。 ・ゴミ拾いもしているよ。	◇(2) 活動例を参照 ◇(3) ドライブ ■社会「願いを実現する政治」		③	②
【情報収集】	18	○イベントを通してどんな地域になったら良いか整理する。 ・久が原の地域は楽しいと思ってもらいたいな。 ・もっと地域のことを知りたいなと思ってほしい。 ・顔を見て挨拶できるといいな。 ・自治会の活動に興味が出てきたらいいな。	■理科「理科とプログラミング」	②	① ② ③	①
【整理分析】	19～				①	②

【まとめ・表現】	27 本時	○イベントを企画・提案・準備をする。 ・小さい子には読み聞かせイベントをしよう。 ・久が原の地域のクイズはどうか。 ・自治会の紹介もいいね。 ・自治会の人とミニ運動会をやりたいな。 ・良さを伝えるコーナーも作ろう。 ・計画ができれば自治会の方に提案しよう。	◇(1) スクールサポート			
	28～ 31	○イベントを運営して感想をもらい、良さをまとめる。 ・楽しいって言ってもらえて良かったな。 ・温かい人が多いな。 ・またやりたいけどたくさんイベントはできないな。 ・日頃からつながるためにはどうするといいいかな。 地域のひとこれからつながるために これからはできる活動を考えよう。	◇(4) 小単元のまとめ ■理科「電気とわたしたちのくらし」	①		①
【課題設定】	32～ 34	○日頃から地域とつながるためにはどうしたら良いか考える。 ・自治会は日頃、何をしているかな。 ・毎日できることはないのかな。	◇(1) スクールサポート ◇(2) 学習内容の掲示			③ ①
	35～ 36	○つながるための活動について情報を集める。 ・イベントの感想を振り返ってみよう。 ・清掃活動をしているよ。 ・挨拶したいと書いてあるよ。	◇(3) 思考ツール	②	②	②
【整理分析】	38～ 42	○できることを整理しよう。 ・清掃活動に参加してみよう。 ・挨拶活動を学校だけでなく地域でもやってみよう				
	43～ 47	○日頃の取り組みをして、大切だと思ったことをまとめる。 ・宣言カードを作ってみよう。 ・選挙ポスターみたいまとめるのはどうか。 久が原の良さを発信しよう。	■国語「おすすめパンフレットを作ろう」 ◇(4) 小単元のまとめ		①	①
【課題設定】	48～ 49	○これまでに自分たちが学習したことを基に、これからのまちづくりについて考える。 ・これまで学習してきたことをまとめよう。 ・何について伝えていきたいかな。 ・学習でお世話になった人にも伝えたいな。	◇(1) 発信の機会	②		①
	50～ 59	○学んだことや伝えたいことの情報を集めて、整理する。 ・久が原のまちの良さは「人とのつながり」だね。 ・イベントをみんなにも経験してほしいな	◇(2) 掲示から課題設定	①	①	②
【まとめ・表現】	60～ 66	○1年間学習してきたことを伝えよう。(久原フェスタ) ・皆に久が原の良さについて伝えよう。 ・課題も知ってもらってみんなで考えよう。	◇(3) ドライブの活用			
	67～ 70	○自分が考えるまちづくりについてまとめる。 ・自分たちが行動することで街は良くなっていくね。 ・これからは地域の一員として活動できることを考えていきたい。 ・大切なのは、人とのつながりだね。災害時も大切になっていくよね。 ・日頃から地域のひとつながっていこう。	◇(4) 単元のまとめ ■国語「今、私は、ぼくは」			

10 学習のスパイラル

6年生ゴールイメージ

まちづくりについて課題や願いがあることを知り、自分たちもまちづくりに街の一員として参画する経験を通して、より良い地域社会を創造する。



11 本時の指導(23/70時間)

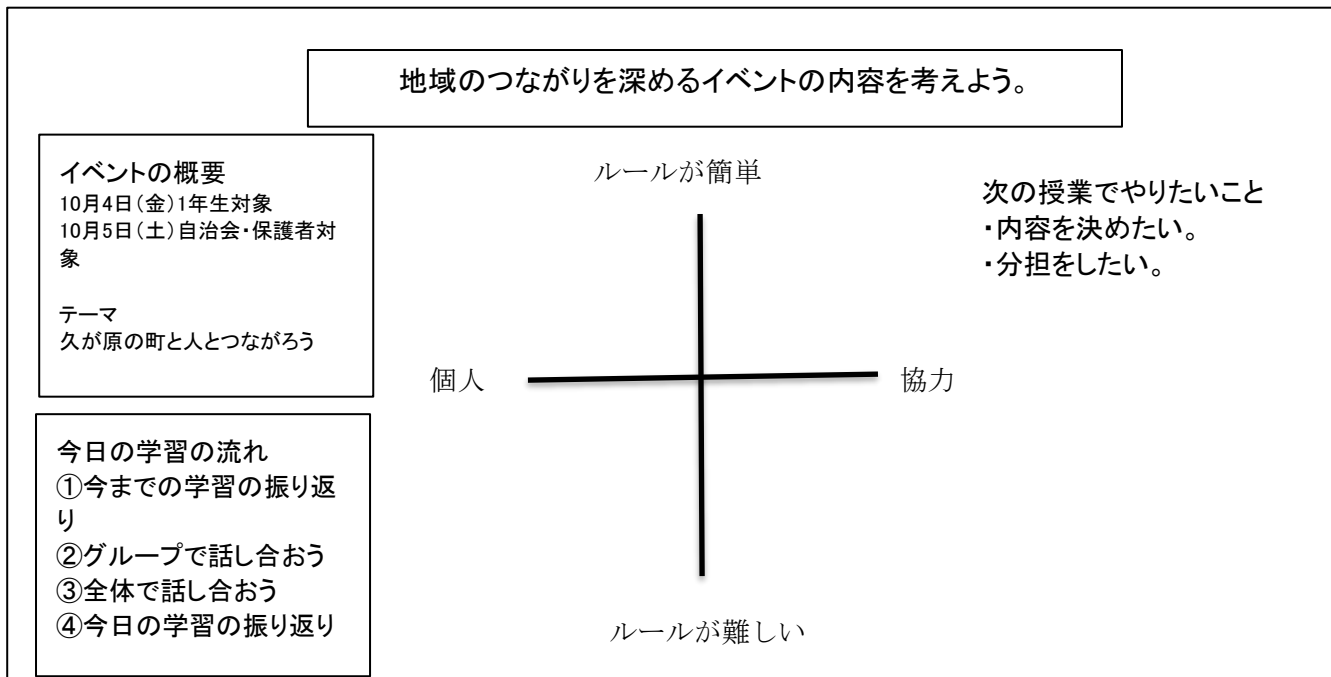
(1) 本時の目標

地域で活動している人たちの想いを知り、自分たちでも地域のつながりを深めていけることができないかと考えられるようにする。(整理分析)

(2) 本時の指導計画

時間	○学習内容 ・児童の反応等	◇指導上の留意点、配慮事項 ☆評価
導入	○前回までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・前は一人一人がイベントでやりたいことを考えたよ。 ・みんなはどんな活動考えたのかな。 ・グループで話し合いたいな。	◇前回までの学習活動を振り返りながら、本時の見通しをもてるようにする。
展開	地域のつながりを深めるイベントの内容を考えよう。 ○グループごとにイベントの内容について話し合う。 ・協力できる内容がいいよね。 ・ルールは簡単なものがやりやすいよ。 ・ふれあい運動会の内容を参考に考えてみたよ。 ・地域のことを伝えることができるといいな。 ・保護者の方には自治会の内容を知ってもらいたいね。 ・久が原マルバツゲームなんてどうかな。 ・他のグループはどんなこと考えたかな。 ○みんなの意見を全体で共有し、考えを整理していく。 ・たくさんの意見が出たよ。どれが1番つながりを深められるのかな。 ・難しい意見もあるよ、簡単にする工夫はできないのかな。 ・プログラムを決めないといけなないね。 ・学年の皆で整理したいね。 ・役割分担も必要だね。	◇イベントの概要を確認して、対象を明確にすることで、考えが整理できるようにする。 ◇思考ツール、座標軸を活用させることで他者意識をもって考えられるようにする。(手立て3) ◇グループの話し合いで思考が広がる場合、付箋やマジックペンを活用して考えが書き足せるようにする。 ☆地域の課題を解決するために、協力できる、ルールが簡単という視点で整理をしている。 思・判・表(行動・発言・付箋等への書き込み) ◇イベントの開催を通して、地域の方がどんな姿になると良いのかゴールイメージを明確にする。 ◇ホワイトボードを活用して児童の考えを整理していく。 ◇実行が難しい内容も出ることが予想されるが、大切に扱う。 ◇次の活動につなげるための発問をする。 ☆よりよいまちづくりに向けて、できることの考えを出し合っている。 <u>主体的に学習に取り組む態度</u> (行動・発言・付箋等への書き込み)
まとめ	○振り返りをする。 ・地域の人たちと一緒に準備ができるといいな。 ・自治会の方にも提案ができるといいかも。 ・ポスターで自治会の内容も知らせたい。 ○次時の見通しをもつ。 ・次は、やる内容を決定したい。 ・役割分担しよう。	◇本時を振り返り、次の活動を具体的に考えることができるようにする。(手だて4)

12 板書計画



13 環境構成

- ・今までの学習の積み上げが分かる写真の掲示
- ・自分たちの学習の広がりが見える化した掲示
- ・まちづくりに関する冊子の準備
- ・思考ツールの掲示